

狂言は難しいとお考えの皆さま！
大いに笑ってください
イヤなこと、子ども達が楽しめる
まさに新しい狂言なので！



ずっこけ
狂言
ばなし

どろ
ピカ
ぽん

日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟

民族芸能アンサンブル 若駒

<http://www.wakakoma.co.jp>

この作品は、初めて伝統芸能に触れる子ども達が、楽しんで観られるように工夫して創りました。
ずっこけとは言え、品格を失う事のない本格的な作品となりました。

会場の円形舞台を見ただけで、子ども達はワクワクしています。
そして繰り広げられるお芝居に、笑い、時には同化し、楽しんで観てくれます。

子ども達は、この作品に触れる事で、伝統芸能を身近に感じ、何よりも楽しみながら観られる事で、日本の伝統文化に興味と理解を深める事が出来、そして心が元気になります。



民族芸能アンサンブル若駒プロフィール

1969年大阪市で結成。

狂言、日本舞踊、三味線、鼓、横笛、民謡など、日本の伝統芸能を学び、また各地の芸能保存会の方々、演出家の方々の指導を受け、数々の作品を生み出してきました。

1971年、全国児童・青少年演劇協議会に、1997年に日本児童・青少年演劇劇団協同組合に加盟し児童・青少年に向けて作品を数々生み出してきました。

現在年間100ステージの公演活動と、和太鼓、民舞の教室活動を行っています。

お問い合わせ、お申し込みは、下記の電話、FAX、e-mail、にてお願い致します。

TEL **06-6926-1244** FAX 06-6926-1245

Emai: geinou@wakakoma.co.jp

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-4-9

民族芸能アンサンブル若駒



ずっけ

狂言

ばなし
どろどろ
ピカぽん

原作.. 狂言

「柿山伏」
「神鳴」
「二人袴」

翻案・演出.. 松本則子
舞台美術.. 円 齋

舞台は円形
始まりは生演奏



舞台を取り囲んで座ります。

伝統的な邦楽の演奏から
いつの間にか三味線ロック
調の音楽へ



最初の曲でワクワクしました。(小3)

柿とやまぶし



あらすじ

お腹をすかせた山伏が柿の実を盗んで食べている。
それを見つけた畑主は、「あれはカラスじゃ、猿じゃ
トンビじゃ」と言っって山伏をからかいます。



みんなで体験
狂言ワークショップ

狂言ワークショップ

まさに新しい狂言です

まあい舞台を取り囲んで座ると、和楽器を持って着物を着た人達が登場。
小鼓の音がタッポポンと鳴り出すと、いよいよ三味線ロックに乗せてはじまりはじまりー！
山伏やカミナリなど、狂言独特のキャラクターが登場し繰り広げる、ずっけ狂言ばなし。
むずかしい言葉や、なが〜い台詞はありません。
あるのは無限に広がる想像の世界。
狂言の所作を残しつつ、分かりやすくテンポ良く進める演出で、伝統の笑いと、現代の笑いが
コラボレーションする、まさに新しい狂言が生まれました。



その場で全員立ち上がり、狂言の基本姿勢
柿を食べる所作、怒る所作、笑う所作、を体験します。
60分プログラムでは、狂言体操、学校で使える狂言の
所作真似を行います。

狂言が体験出来て、ますます興味がわきました。(小6)

ポイント

観劇するだけでなく、実際に体験する事で、狂言の奥深さ
を知り、さらに理解が深まり興味が広がります。

上演プログラム

上演時間 60分

柿とやまぶし

みんなで体験狂言ワークショップ
「狂言体操」「学校で使える
狂言の所作真似」

上演時間 45分

柿とやまぶし

みんなで体験狂言ワークショップ
「基本姿勢」「笑ってみたい怒
ってみたい」

二人 ば か ま

1ステージ300人程度。一日3ステージまで上演できます。
どちらのバージョンも、全学年で鑑賞できます。

か み な り

か
み
な
り

あらすじ

雲を踏み外して地上に落ちてきたカミナリは
腰を痛めて動けません。
そこに居合わせた医師が、腰痛を治そうと...



ポイント

威張っていたカミナリと怖がっ
ていた医師。しだいに立場が逆
転していき...



おにさんがこわがっているところが
おもしろかった。(小1)

二
人
ば
か
ま

あらすじ

人間の嫁をもらって、ためきの世界で一番になろうと
やって来た親子。
子だめきは殿様に会うために、長い袴をはいて挨拶に
行きますが...



やぶれたものを着るというのが
おもしろかったです。(小5)

ポイント

ストーリー性が強く充実した内容です。
主人公を、原作の叔父甥の関係から
ためきの親子に置き換えた事で、より親しみや
すぐ分かりやすくなっています。



おいしそうに柿を本当に食べているよう
でおもしろかった。(小2)

ポイント

原作の「柿山伏」は教科書にも掲載されています。
短いセリフと分かりやすい演出で、低学年から楽しめる、人気の演目です。